

## 入隊・入校予定者を激励 「第46回神奈川自衛隊音楽まつり2025」



自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 大谷三穂1等海佐）は、2月11日（火）、横浜武道館アリーナ（横浜市中区）にて開催された「第46回神奈川自衛隊音楽まつり」を支援した。主催したのは神奈川地方協力本部支援団体協議会で、県防衛協会、県隊友会、県自衛隊家族会、神奈川地本募集相談員会の4団体で構成されている。

音楽まつりは、2部構成で行われ、今春の入隊・入校予定者とそのご家族のほか、募集対象者や関係者など約1,300名が参加した。第1部は入隊・入校予定者激励会で、国歌斉唱、来賓祝辞の後、入隊・入校予定者が紹介され、一般幹部候補生として入校する平野裕介さんが代表として謝辞を述べた。

平野さんは、出身地である石川県に帰省中に能登半島地震に被災したため、予定していた昨年度の入校を取りやめ、本年度に再度受験してこの日を迎えた。災害の現実に向き合う中で、周りの人々に支えられて生きていることを実感し、自らも「誰かのために何かをしたい」という気持ちが育まれたと語り、「人の痛みを知り、国民から信頼され、愛される自衛官になれるよう、日々精進し続けていきたい」と力強く決意を表明した。

第2部は音楽演奏会で、陸上自衛隊横浜駐屯地太鼓部の勇壮な「横浜湊和太鼓」の演奏と格闘演舞で幕を開けた。続いて東海大学付属相模高等学校中等部吹奏楽部の元気いっっぱいの演奏や横浜市消防音楽隊による軽快な演奏と華麗なステージドリル演技が披露され、最後に海上自衛隊横須賀音楽隊が登場した。演目の「Stand Alone」での美しい歌声や「陸・空・海マーチ・メドレー」などの躍動感あふれる演奏で会場は大いに盛り上がり、フィナーレでは出演者全員がステージに上がり観客と一緒に「Believe」を合唱し、音楽まつりは一体感に包まれながら幕を閉じた。

神奈川地方協力本部は、「今春、自衛隊に入隊・入校される一人ひとりの志に深く敬意を表します」としている。